

令和7年12月13日  
長野県精神保健福祉士協会  
会長 二 宮 美 和  
(公 印 省 略)

長野県精神保健福祉士協会  
会員 各位

## 令和7年度長野県精神保健福祉士協会「実践・研究報告会」のご案内

初雪の候、会員の皆様には、日頃より本協会活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。  
さて、下記の日程で令和7年度長野県精神保健福祉士協会「実践・研究報告会」を開催いたします。ご多忙の折とは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご参加頂きますようお願い申し上げます。

### 記

- 1 日 時 令和8年1月25日(日)14:00～15:30 (受付開始13:30～)
- 2 開催方法 リモート(Zoom)のみ
- 3 内 容 13:30～14:00 受付  
14:00～14:05 会長あいさつ  
14:05～15:25 実践・研究報告会 (発表者については裏面「発表要旨」参照)  
15:25～15:30 連絡事項・閉会
- 4 対 象 長野県精神保健福祉士協会員 ほか
- 5 参加費 会員・学生: 無料 非会員: 500円  
\*参加費振込先  
八十二銀行 上田東支店(店番号 313) 口座番号 1094349  
口座名義「長野県精神保健福祉士協会 会計納入口」  
\*非会員の参加費を職場等でまとめて支払う場合は、メールで参加者全員のお名前をお知らせください。  
\*令和8年1月16日(金)までにお振込みください。
- 6 参加申込 下記QRコードまたはURLよりお申し込みください。  
<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdADWK4-8grw7Oml-N686DVYzKuvJ8kFjG3Abi2sU9TAp35A/viewform?usp=dialog>



- 7 申込締切 令和8年1月16日(金)

8 参 加 方 法 \*ZoomURL:

<https://us06web.zoom.us/j/81234929997?pwd=QKLCauiASar7IhBTPBJ7paP42bJO3a.1>

\*ミーティング ID: 812 3492 9997

\*パスコード: 648480

9 そ の 他

\*事前にZoom環境、使用するパソコンなどのデバイスの使用環境をご確認ください。

\*Zoom入室後、お名前を申込時の氏名(漢字)に変更してください(出席確認のため)。

\*報告会時は必ずカメラをオン、発言時以外はマイクをミュートにしてください。

\*報告会は、全ての場面において録画・録音・スクリーンショットを禁止します。これは、報告者、座長、質問者など参加者全員が安心安全で報告会に参加できるよう、みなさんでルールを守って「参加して良かった！」と思える報告会をつくるためです。また、報告者の方々が作成された資料の転載、複製、改変等は禁止いたします。ご協力をお願いします。

【問合せ先】

長野県精神保健福祉士協会研修部 佐藤 森山 井口

当日連絡先:[haruka\\_0610@outlook.jp](mailto:haruka_0610@outlook.jp)

:豊科病院(0263-72-8400)

# 令和7年度長野県精神保健福祉士協会「実践・研究報告会」

## 発表要旨

日時:令和8年1月25日(日) 14時00分～15時30分

開催方法:リモート(Zoom)

### 【座長】

佐藤 園美 氏 (佐久大学 人間福祉学部)

発表順		
1	発表者	松平 隆史 (精神障害当事者会ひびき)
	テーマ	当事者はどのような精神保健福祉士を求めているのか・望んでいるのか ～精神保健福祉士の役割と存在意義、専門性をめぐって～
	発表要旨	発表者は2000年に精神保健福祉士を取得し、総合病院の精神科デイケア、地域活動支援センター I 型、就労継続支援B型事業所などで計16年勤務した。2004年にうつ病を発症し、2005年に1回目の入院を経験した。2023年に躁状態となり、2回目の入院を経験した。病名は双極性障害となった。2回目の退院後、「精神保健福祉士の役割、存在意義、専門性とは何だろうか？」と考えさせられた。精神保健福祉士とクライアントとの関係性や、クライアントとの信頼関係づくりの大切さ・大事さ、信頼関係の形成とその深化・発展のための「技術」と「日々の創意工夫」、そして「思考停止しないこと」が、いま改めて問われている。
2	発表者	安川 麻実 (フリーランス)
	テーマ	地域の産後ケアを通して感じた周産期に必要なサポート
	発表要旨	現在、産後指導士としてリハビリ型の産後ケアを実践しつつ、精神科病院でのソーシャルワーカー経験を生かし、地域の母親支援に取り組んでいます。子育てサークルでは、運動やマインドワークを通して産後の体と心の回復を促し、孤立を防ぐ交流の場を提供しています。また、子育て支援センターでは精神保健福祉士として相談を受け、治療中の方への支援につながるケースもあります。活動を通して、産後は深刻化してから支援につながる現状を強く課題と感じています。産前産後にこそソーシャルワーカーの介入が必要であり、身体ケアと心理社会的支援が連携することで、母親が本来の力を発揮できる周産期ケアが実現できると考え、その重要性について報告したいと思います。
	発表者	山口 大輔(NPO法人北アルプスの風 がんばりやさん相談支援事業所)
	テーマ	「本人の『こんな生活がしたい』を支える相談支援の取り組み」 —居住支援ネットワーク構築への展望—
	発表要旨	ご本人は、家族との同居によるストレスから一人暮らしを希望され、「一人暮らし

3		し体験」を通して生活のイメージをつかみ、自分の思いを再確認された。体験後は公営住宅での生活へ移行し、一人暮らし特有のトラブルを経験しながらも、3年間安定して地域生活を続けている。本事例は、地域住民や関係支援者の理解促進につながり、「地域啓発」としての効果も見られた。今後、福祉分野では人材不足が予想される中、地域の中で自然に支え合う仕組み作りや居住支援のネットワーク構築がますます重要となると実感している。本発表を通じて、ネットワーク構築に向けたヒントを参加者の皆様からいただければ幸いである。
4	発表者	佐藤 みずき(長野県立こころの医療センター駒ヶ根)
	テーマ	依存症治療に携わった8年弱
	発表要旨	発表者は平成29年後半から令和7年6月まで依存症病棟担当SWを担った。こころの医療センター駒ヶ根は令和2年に長野県依存症治療拠点機関に選定され、同年ギャンブル依存症治療プログラムを開始、令和4年よりネットゲーム依存治療プログラムを開始した。またその間にも未治療の家族プログラムを開始し、病棟でアンガーマネジメントプログラムを開始した。プログラムを立ち上げに奔走した期間でもあった8年の実践と依存症治療の魅力を振り返りたい。

\* 発表時間は1演題あたり15程度(質疑応答を入れて20分)